

■公述人1

公述意見の要旨	市の考え方
<p>5点発言する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 一、二丁目に住む高齢者、障がい者が若葉台商店街に安全に往復できるよう、ゆきあい橋脇にエレベーターを新たに設置してほしい。ゆきあい橋は、二丁目北エリアだけではなく、二丁目南や一丁目のエリアの方も多数利用している。これまで若葉台は高齢化率の割合が高いにもかかわらず、要介護率が極めて低いと自他ともに認めてきた。しかし、データでは、要介護率は上昇し始めている。これは、ぎりぎりまで介護保険を使わずに長生きする高齢者、障がい者が多いためであると思うが、横浜旭中央総合病院や若葉台商店街、ヨーカドー、中央バス停にこれからも介護なしに往復できるよう、ゆきあい橋の勾配の急な坂の手前にエレベーターを設置し、三丁目2階、1階に出入り口を設けてほしい。</li> <li>2 県住宅供給公社が管理・運営する多目的文化防災センターを建設してほしい。空き地C' に病院や福祉施設を新たに建築する必要はあるのか。既に心臓部には旭中央総合病院があり、また、この近くに赤枝病院がある。その一方で、若葉台に多目的文化ホールがない。地区センター会議室は机を除いて椅子は50脚が限度である。ケアプラザの多目的ホール、若葉台中学校Eホールも100席が限度である。若葉台文化祭、地区センターまつり、高齢者交流会で3つの体育館を使うが、いずれもコーラス、演劇、楽器演奏、オペレッタ等は音響、照明、舞台がよくない。この建物の地下は防災センターにして備蓄品の倉庫も兼ねる場所にしてほしい。また、震災・火災の緊急時に1階は防災備蓄品の出し入れ口、被災者の一時避難所として使用し、ふだんは子どもホール、遊び場として確保してほしい。この建物の2、3、4、5階に相当する空間は多目的文化センターとして会議室フロアに加え、防音と音響、舞台の設備が整った最大200から250席程度の観客を収容できる多目的ホールを設けてほしい。</li> <li>3 若葉商店街の抜本的改修を行い、地域住民に加え、遠くからも家族連れで若い世代がイベントに参加し、買物に来てもらえる商店街にしてほしい。若葉商店街広場の冬は寒く、雨天のときは閑古鳥が鳴いている。広場全体に天蓋を設置し、季節や天候に左右されずに常時イベントを行えるよう、改装してほしい。さらに、中央バスセンターと地続きで行き来できる三丁目の2階に新たに商店街スペースを新設してほしい。1階の商店街をシャッター街にしないため、家賃を大幅に引き下げ、若葉台住民に加え近隣の住民が家族連れで買物に来てもらえるように、2階には若者や家族連れをひきつける店舗を募集してほしい。その際、まちづくりセンターの事務所は、1階の空き店舗に移動し、3-5棟の2階は全て商店街にしてはどうか。</li> <li>4 子育てのために中央バスセンター近くに保育園（深夜預かり含め）を新設してほしい。若者の労働条件の多様化に対応し、仕事帰りの保護者がバス停から直行できる若葉商店街に保育園を開設してほしい。次に、若葉台中学校Eホールの改装で中学校給食を実施してほしい。現在、横浜市の中学校給食はハマ弁で行われている。旭区の子どもたちの利用率は数%以下で、横浜市は現在の給食を見直すと聞いている。若葉台で先行的に、衛生的で安全な学内で温かい給食を実施してほしい。若葉台に子育て世代を呼び込むために、若葉台中学校で先行的に給食を行ってもよいのではないかと。幸い、若葉台中学校校舎にEホールが付随している。改装して給食調理器を設置すれば、来年度からでも地域の食材を使って完全給食が実現できるのではないかと。3つ目に、遊水池で花火打ち上げのために必要な65メートルスペースを確保し、そのスペースに子ども広場を、多目的文化・防災センター（1階の子どもホール）前に設置してほしい。幼児から小学生の子どもたちがのびのびと安心して遊べる場所を確保してほしい。</li> <li>5 これまでの若葉台みらいづくりプラン推進協議会の活動に感謝申し上げる。今回の都市計画変更により、若葉台のまちづくり、みらいづくりは、これまでにない急速に進展すると期待している。同時に、今回の都市計画変更により、県住宅供給公社が所有している土地は民間に売却・賃貸しやすくなる。民間と契約した際の売却・賃貸料は、若葉台住民のために使ってほしい。若葉台の土地利用は県住宅供給公社が住民との合意の上で活用する仕組みになっているはずである。最後に、若葉台みらいづくり推進協議会は、若葉台のみらいづくりのかなめの会議である。推進協議会に傍聴席を用意し、若葉台住民が直接協議過程を共有できるようにしてほしい。また、推進協議会にやる気のある若い住民が直接参加できる枠を確保し、若葉台のみらいづくりに若い世代の意見が今まで以上に直接反映されるよう改善してほしい。</li> </ol>	<p>若葉台団地は、昭和47年3月に「若葉台一団地の住宅施設」の都市計画が決定され、昭和48年に神奈川県住宅供給公社（以下「県公社」という。）が事業主体となり、造成工事が始まりました。その後、社会情勢の変化等に伴う過去4回の都市計画変更を経て、現在、総戸数6,000戸を超える、全国でも有数の大規模な住宅団地が形成されています。</p> <p>昭和54年の入居開始から約40年が経過し、若葉台を将来にわたって様々な世代に選ばれ続けるまちとして持続させること等を目的として、地域活動団体、学識経験者及び行政で構成するマスタープラン策定委員会において、まちづくりの検討が進められ、平成29年3月に「横浜若葉台みらいづくりプラン」が策定されました。</p> <p>この「横浜若葉台みらいづくりプラン」において、まちづくりの目標や方針が定められたことを受け、少子高齢化の進展等に伴う新たな土地利用のニーズに対応し、持続可能な住宅団地として維持・発展させていくため、本市は「若葉台一団地の住宅施設」の公益的施設の配置の方針等を変更する都市計画市素案を作成しました。</p> <p>多目的文化防災センターの建設について御意見をいただいたC' 街区は、これまで住宅のみが立地可能な街区でしたが、今回の都市計画変更により住宅に加え、医療施設、福祉施設、学校等及び幼稚園等の立地が可能となるよう公益的施設の配置の方針の見直しを行います。C' 街区において、多目的文化防災センターの立地は想定していませんが、いただいた御意見については、土地所有者である県公社に伝えるとともに、今後横浜市が行う若葉台のまちづくりの参考とさせていただきます。</p> <p>また、エレベーター整備や若葉台商店街の改修、保育所の新設等に関する様々な御意見については、「横浜若葉台みらいづくりプラン」において「まちの活性化や子育て世代から高齢者までだれもが暮らしやすいまちづくり」などを掲げており、それらの実現に向けた取組の中で参考とさせていただきます。</p> <p>花火打ち上げのためのスペース確保及び子ども広場の設置に関する御意見については、土地所有者である県公社に伝えるとともに、横浜若葉台みらいづくり推進会議への御意見及び御要望については、その旨を事務局に伝えます。</p> <p>若葉台団地を持続可能な団地として維持・発展させていくため、今後も引き続き、県公社や一般財団法人若葉台まちづくりセンターと連携して、地域の方々とともにまちづくりに取り組んでいきます。</p>

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人 2

公述意見の要旨	市の考え方
<p>2点について公述する。</p> <p>1つ目は、公共の施設を増やしてほしいとの要望である。現在、中央の地区センターには、会議室と言えるのは2部屋のみで、希望日時に予約するのが困難な状況である。また、気軽にお茶やミーティングする場所がないことも非常に不便を感じている。各自治会に集会室はあっても、その自治会以外の人には料金や手続などとても使いにくい状況である。また、100人程度の収容施設となるとケアプラザぐらいしかなく、各団体が集中し、それもなかなか思う日程では利用することができないという状況になっている。以上から、300人程度の規模の多目的ホール、その他小規模の会議室をつくっていただきたく、要望する。フリースペースなど、気軽に利用できる場所も必要である。そして、小規模のフリースペースは、できるだけ住まいの近いエリアごとにつくっていただくことを要望する。今、100人以上のイベントなどは、学校の体育館などを利用せざるを得ない現状であるが、会場をつくるために前日から机や椅子を運んで準備し、そして、終わると後片づけと多大な労力が必要である。せめてこのような負担のない会場を是非検討いただきますよう、切に要望する。</p> <p>1つ例であるが、隣の大和市にあるシリウスという文化施設を知っているか。大和市では、文化創造の拠点と位置付けている建物である。6階建ての建物で、5階までは分野別の図書、6階は会議室やフリースペース、3階には子ども用の本がびっしりで、同じフロアに幼児用のプレイルームも年齢別に2箇所ある。その他、音楽ホールも併設しており、すばらしい施設である。是非一度見学をお勧めする。平日でもベビーカー世代から小中学生、学生や高齢者など、全世代が続々吸い込まれるようになっていく。この施設は2016年11月にオープンし、まだ3年足らずだが、この6月で800万人の入館者になっているとのことである。私たちにはとてもうらやましい施設である。同じものとは言わないが、大いに参考になり、また、ヒントになるものだと思う。若葉台は緑の環境は大変すばらしく、誇れる団地とは思いますが、やはりそれだけではよそからも足を運んでもらう吸引力にはならないと思う。どれだけ魅力あるまちにするか、できるのか、将来を見越しての構想を是非検討いただきたいと思う。これだけメディアに注目されている若葉台であるため、横浜市だけでなく県レベルでも思い切った対策を検討していただけたらと思う。</p> <p>次に2つ目は、介護関係施設についての要望である。住民が将来も安心して住み続けられるために、体の不自由の程度に応じた施設や環境が必要と考える。例えば、小規模多機能施設、介護付き老人施設、サービス付き賃貸住宅など、住民が選択できる住まい、安心の施設整備を要望する。また、その際に、それらの専用施設というのではなく、地域住民にも開かれた、利用できるような施設を検討していただきたいと思う。例えば、フリースペースを併設するとか、幼稚園・保育園や学童を一緒につくるとか、よそにはたくさん事例があると思う。安心して若葉台に住み続けられる環境の整備を是非実現していただきたいと思う。</p>	<p>若葉台団地は、昭和47年3月に「若葉台一団地の住宅施設」の都市計画が決定され、昭和48年に神奈川県住宅供給公社（以下「県公社」という。）が事業主体となり、造成工事が始まりました。その後、社会情勢の変化等に伴う過去4回の都市計画変更を経て、現在、総戸数6,000戸を超える、全国でも有数の大規模な住宅団地が形成されています。</p> <p>昭和54年の入居開始から約40年が経過し、若葉台を将来にわたって様々な世代に選ばれ続けるまちとして持続させること等を目的として、地域活動団体、学識経験者及び行政で構成するマスタープラン策定委員会において、まちづくりの検討が進められ、平成29年3月に「横浜若葉台みらいづくりプラン」が策定されました。</p> <p>この「横浜若葉台みらいづくりプラン」において、まちづくりの目標や方針が定められたことを受け、少子高齢化の進展等に伴う新たな土地利用のニーズに対応し、持続可能な住宅団地として維持・発展させていくため、本市は「若葉台一団地の住宅施設」の公益的施設の配置の方針等を変更する都市計画市素案を作成しました。</p> <p>300人規模の多目的ホールについては、現在、区域内での立地を想定していませんが、小規模な会議室については、今回の都市計画変更により、未利用地等に地域住民のための集会所の立地が可能となるよう公益的施設の配置の方針の見直しを行います。</p> <p>介護関係施設については、柔軟な配置が可能となるよう、今回の都市計画変更により、公益的施設の配置の方針の見直しを行います。また、事業用地を所有する県公社では、団地内の住替えや介護需要の受け皿確保を視野に入れた土地利用を図る予定であると聞いています。</p> <p>いただいた御意見については、「横浜若葉台みらいづくりプラン」において「豊かな公共空間の利活用及び地域包括ケアの実現」などを掲げており、それらの実現に向けた取組の中で参考とさせていただきます。</p> <p>若葉台団地を持続可能な団地として維持・発展させていくため、今後も引き続き、県公社や一般財団法人若葉台まちづくりセンターと連携して、地域の方々とともにまちづくりに取り組んでいきます。</p>

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人3

公述意見の要旨	市の考え方
<p>若葉台一丁目3棟の前にある元F F マートの建物の利用について公述する。</p> <p>現在、元F F マートの建物は、時たまリフォームの展示会場として台所やお風呂場などの展示品の紹介があり、自治会や管理組合の集まりなどにも利用され、また、住民の集会の場所として使われるときもあった。この建物を、今後は近隣住民が有効に活用できるスペースとして直していただきたいと思い、この公述の申し込みをした。</p> <p>先日の都市計画市素案説明会では、この場所は公益的施設の方針の変更後の扱いとして、店舗等とか、学童保育施設等とか、いろいろと適宜配置するというふうに書いてあったと思う。しかし、この場所は、この建物専用の駐車場はなく、今まで幾つかのミニスーパーが開店しては閉店するということが繰り返され、現在に至っている。したがって、ここを商業スペースとするには不向きだということとは誰の目にも明らかである。</p> <p>では、せっかくあるこの建物を何に生かすかであるが、若葉台は全体的に年々高齢化率が上がっているが、その中でも高齢化率若葉台第1位が私の住む一丁目である。60歳以上の方が50%を超えたと聞いている。私たちは集会や趣味のサークル活動などは、元若葉台東小のコミュニティや地区センターに行ったり、そしてまた、ここ元若葉台西中のところまで来ることになる。一丁目にも2つの集会所があるが、これらは自治会や老人会などで日常的に有効に利用されているが、大勢集まることができる屋内スペースとしては不適切で小さいため、またそういった大きいスペースはない。ここを住民が気軽に集まって使えるスペースとして活用できたらと思っている方はたくさんいる。先日配られた7月26日付の若葉台第一住宅管理組合のニュースみずきの中に、「センター新理事長より表敬訪問を受ける」という記事があった。若葉台まちづくりセンターの新理事長から管理組合に対し、若葉台のまちの状況、まちづくりセンターの収益状況などの説明があった後、第一住宅に接している所有の旧ミニスーパーについては、生活利便施設にしたいという話があり、県公社に対しては、用途変更は構わないが、用途変更に際しては防音工事を施し、夜間のたまり場としないことなど、住環境に配慮していただきたいと申し入れてありますと、具体的に書いてあった。前回ここで6月に説明会があり、7月9日が公述の申し込み締め切りであったため、このニュースみずきの記事の内容は私は全く知らなかったが、今の時点で既に生活利便施設の案が県に申し出済みのことだそうなので、是非このプランを進めていただきたいと思う。</p> <p>これから具体的な要望を2つだけ申し述べる。まず1つ目、建物のリフォームについてであるが、この建物1階にはトイレがない。これまで、ここで説明会などをしたときは短時間に限られ、大変使いにくい建物だなと思っていた。そこで、1階フロアに車椅子の方でも使えるトイレと簡単な水回り施設をつくれれば、住民が安心して集まれる場所が変わると思う。また、一年中快適に使えるようにエアコンを、何かあったときのためにまちづくりセンターにつながる電話などを設置するなど、その他にもいろいろな工夫があったらもっと便利な施設になると思う。</p> <p>2つ目、建物の利用について。若葉台中央にはあさがお、ひまわりなどがあり、中央から少し西に行けばケアプラザがあり、そしてこの西の外れにここ、元若葉台西中の建物があるが、私たちの暮らす第一自治会からどれもとても遠く、坂道や段差もあって、足腰の不自由な方や車椅子の方などには大変不便で利用しづらい場所ではないかと思う。私がいろいろな方に意見を聞いた中で、元F F マートのところにケアプラザの出張所のような場所ができないかという意見があった。若葉台ケアプラザは1999年、今から20年前にできたそうだが、ケアプラザというのは中学校区に1つずつが原則だったそうである。残念ながら児童数の減少により、今、若葉台に中学校は1つになってしまったが、若葉台にはもともと若葉台東中と若葉台西中の2つの中学校があったため、2つのケアプラザがあって当然のまちだと思う。元気な老人が多いと言われていた若葉台だが、これからの将来を見据えれば、ケアプラザが1つというのはいかかなものか。そこで、この用途変更をチャンスに、この場所にケアプラザの出張所のような場所ができれば、毎日だけでなく1日置きでもいいから看護師さんが来てくれて血圧を測ってくれる、相談にも乗ってもらえるなどという施設になったら、サークルで集まったついでに健康管理ができ、安心してみんなとおしゃべりして楽しむことができると思う。</p> <p>最後に、この場所がリフォームされるときには、事前に私たち近隣住民に意見を聞いて具体的な希望を集め、みんなが有効に使えるようなより良い施設づくりが行われることを希望する。</p>	<p>若葉台団地は、昭和47年3月に「若葉台一団地の住宅施設」の都市計画が決定され、昭和48年に神奈川県住宅供給公社（以下「県公社」という。）が事業主体となり、造成工事が始まりました。その後、社会情勢の変化等に伴う過去4回の都市計画変更を経て、現在、総戸数6,000戸を超える、全国でも有数の大規模な住宅団地が形成されています。</p> <p>昭和54年の入居開始から約40年が経過し、若葉台を将来にわたって様々な世代に選ばれ続けるまちとして持続させること等を目的として、地域活動団体、学識経験者及び行政で構成するマスタープラン策定委員会において、まちづくりの検討が進められ、平成29年3月に「横浜若葉台みらいづくりプラン」が策定されました。</p> <p>この「横浜若葉台みらいづくりプラン」において、まちづくりの目標や方針が定められたことを受け、少子高齢化の進展等に伴う新たな土地利用のニーズに対応し、持続可能な住宅団地として維持・発展させていくため、本市は「若葉台一団地の住宅施設」の公益的施設の配置の方針等を変更する都市計画市素案を作成しました。</p> <p>御意見をいただいた建物の立地する街区は、これまで店舗のみが立地可能な街区でしたが、今回の都市計画変更により、店舗等及び福祉施設等の立地が可能となるよう公益的施設の配置の方針の見直しを行います。</p> <p>現在、ケアプラザの立地は想定していませんが、前述のとおり当該街区では今回の都市計画変更により、福祉施設の立地が可能となります。</p> <p>いただいた御意見については、今後横浜市が行う若葉台のまちづくりの参考とさせていただきます。</p> <p>なお、建物のリフォームを含めた利活用に関する御意見については、土地・建物の所有者である一般財団法人若葉台まちづくりセンター（以下「センター」という。）に伝えます。</p> <p>若葉台団地を持続可能な団地として維持・発展させていくため、今後も引き続き、県公社やセンターと連携して、地域の方々とともにまちづくりに取り組んでいきます。</p>

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人 4

公述意見の要旨	市の考え方
<p>若葉台のまちづくりの基本方針に従って、若葉台をもっと魅力あるまちづくりを考えてほしいというのがある。100年マンションを掲げている若葉台団地をより内外に発信し、空き家を増やさない、ゴーストタウンにさせないための未利用地を考えてほしいと思っている。</p> <p>若葉台は現実に今、半数の方が高齢の方だと思ふ。この先30年後、今よりも人口は減ってくるとも思ふ。新たな住宅をつくることも一部要望している。若い年齢層が入れるまち。</p> <p>あと、学校の給食、中学校給食、その辺に関してもまた再編として考えてほしいと思っている。これは横浜市の抱えている給食問題である。若葉台から発信し、新たな魅力のまちになるように考えてほしいと思ふ。</p> <p>市素案説明会の質疑応答の際にも話したが、市の状況としてはなかなかその場では良いとも言えない話だと思ふが、ここでノーと言ったらそれで終わってしまうので、少しでも市の職員であれば、もうちょっと市民の声を聴いてもらえたらと思ふ。</p>	<p>若葉台団地は、昭和47年3月に「若葉台一団地の住宅施設」の都市計画が決定され、昭和48年に神奈川県住宅供給公社（以下「公社」という。）が事業主体となり、造成工事が始まりました。その後、社会情勢の変化等に伴う過去4回の都市計画変更を経て、現在、総戸数6,000戸を超える、全国でも有数の大規模な住宅団地が形成されています。</p> <p>昭和54年の入居開始から約40年が経過し、若葉台を将来にわたって様々な世代に選ばれ続けるまちとして持続させること等を目的として、地域活動団体、学識経験者及び行政で構成するマスタープラン策定委員会において、まちづくりの検討が進められ、平成29年3月に「横浜若葉台みらいづくりプラン」が策定されました。</p> <p>この「横浜若葉台みらいづくりプラン」において、まちづくりの目標や方針が定められたことを受け、少子高齢化の進展等に伴う新たな土地利用のニーズに対応し、持続可能な住宅団地として維持・発展させていくため、本市は「若葉台一団地の住宅施設」の公益性施設の配置の方針等を変更する都市計画市素案を作成しました。</p> <p>未利用地の活用については、土地所有者である県公社等が今後、公募により事業を実施する予定であると聞いています。いただいた御意見については、県公社等に伝えるとともに、今後横浜市が行う若葉台のまちづくりの参考とさせていただきます。</p> <p>学校の再編等に関する御意見については、平成19年に若葉台地区内の小中学校5校の再編を行っていますが、「横浜若葉台みらいづくりプラン」において「更なる若年層の転入促進」などを掲げており、それらの実現に向けた取組の中で参考とさせていただきます。</p> <p>若葉台団地を持続可能な団地として維持・発展させていくため、今後も引き続き、県公社や一般財団法人若葉台まちづくりセンターと連携して、地域の方々とともにまちづくりに取り組んでいきます。</p>

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人 5

公述意見の要旨	市の考え方
<p>私は、教育文化施設から教育文化施設及び福祉施設に都市計画変更が提案されている、ここ旧若葉台西中学校の跡地について3点意見を述べる。</p> <p>1つ目は、会議室や多目的室など、市民が多く利用できるスペース、特に音響設備の整った部屋の設置を望む。若葉台には地区センターやケアプラザなど、公共施設や自治会単位に設けられている集会所など、住民が利用できる部屋が一定数設置されている。しかし、十分な数とはなっておらず、サークル活動をされている方々から会場確保に苦勞するという話を伺うことがある。若葉台が住民の自主的な文化活動が特に盛んな地域であるかどうかは、私は判断する情報を持ち合わせていないが、活用できるスペースが増えることは多様な取組がされやすくなり、住民の社会参加がより盛んになると思われる。その中でも、現在、若葉台にある施設で音響に配慮された部屋は、ケアプラザ2階の多目的ホールのみではないかと認識している。若葉台には各種文化・芸術活動に携わっている方々が多く居住されており、音楽系の教室を開催されている方もいる。これらの教室では発表会も行うことがあるが、会場の手配に苦勞されている。ふだんのレッスンで使用している会場でこじんまりと行うか、近場でも青葉台周辺のホールやホテルまで足を延ばさないといけないのが現状である。お稽古ごとは発表の場が大きな目標になる。地域に利用できる小ホールがあることで発表の場を参加者にあわせて開催できるようになったり、演奏会や催し物が増えれば、若葉台の住民のみでなく、周辺地域から足を運ぶ方も多くなると考える。現在、若葉台スポーツ・文化クラブが多彩な活動をされているので、施設を充実していくことでより発展することを期待している。</p> <p>次に、増改築など施設の改修が行われる場合は、周辺住宅の日照時間、これが現状から後退することのないように規制をしていただきたい。これを要望する。横浜市の若葉台一団地の住宅施設の主な建設制限に、「高層住宅においては冬至日に4時間以上の日照を確保」とある。4時間以上の日照を確保、これは最低限の条件と思われる。既に建設済み、居住している区画については、この環境が損なわれることのないようお願いしたい。</p> <p>そして3つ目に、教育文化施設については、公共的な要素が大きく、営利目的の運営は難しいと思われる。既存の施設の整備も望まれるところである。市には積極的に関わっていただき、この区画を若葉台のみならず、旭区を初め、瀬谷区や緑区など、横浜の西側・南側の地域からでも利用できる施設となるよう、活用していただきたいと思う。</p>	<p>若葉台団地は、昭和47年3月に「若葉台一団地の住宅施設」の都市計画が決定され、昭和48年に神奈川県住宅供給公社（以下「公社」という。）が事業主体となり、造成工事が始まりました。その後、社会情勢の変化等に伴う過去4回の都市計画変更を経て、現在、総戸数6,000戸を超える、全国でも有数の大規模な住宅団地が形成されています。</p> <p>昭和54年の入居開始から約40年が経過し、若葉台を将来にわたって様々な世代に選ばれ続けるまちとして持続させること等を目的として、地域活動団体、学識経験者及び行政で構成するマスタープラン策定委員会において、まちづくりの検討が進められ、平成29年3月に「横浜若葉台みらいづくりプラン」が策定されました。</p> <p>この「横浜若葉台みらいづくりプラン」において、まちづくりの目標や方針が定められたことを受け、少子高齢化の進展等に伴う新たな土地利用のニーズに対応し、持続可能な住宅団地として維持・発展させていくため、本市は「若葉台一団地の住宅施設」の公益的施設の配置の方針等を変更する都市計画市素案を作成しました。</p> <p>旧若葉台西中学校の跡地の街区は、これまで教育文化施設のみが立地可能な街区でしたが、今回の都市計画変更により教育文化施設に加え、福祉施設等の立地が可能となるよう公益的施設の配置の方針の見直しを行います。具体的な施設整備等の様々な御意見については、「横浜若葉台みらいづくりプラン」において「豊かな公共空間の利活用」などを掲げており、それらの実現に向けた取組の中で参考とさせていただきます。</p> <p>日照時間については、今回、住宅の配置の方針に関する変更はありませんので、引き続き、現在定めている制限の範囲で土地利用が行われることとなります。</p> <p>若葉台団地を持続可能な団地として維持・発展させていくため、今後も引き続き、県公社や一般財団法人若葉台まちづくりセンターと連携して、地域の方々とともにまちづくりに取り組んでいきます。</p>

公述意見の要旨	市の考え方
<p>中層住宅ができてしまうということがあり、これは嫌だと思い、申出書に書いた。</p> <p>中層住宅に関してであるが、C’ つばきの2棟目の予定地というのがありますが、それはあかねの歩道橋のそばの若葉台でも西側の棟なのだが、そのつばき2棟目の予定地が、私を知っている限りでも37年間以上そのまま放置されて、雑草の中に置かれてきた。それには当然、その意図があるはずと私は思っている。そのC’の土地、素案では赤く塗ってあるが、南側が赤いところである。C’の土地の約3分の1の土地に、このたび突如、中層住宅構想というものがつくられるということで、そんな唐突な提案はやめてほしいと思ひ、これを書いた。その代わりに、例えばプラネタリウムをそこに つくって、未来を生きる輝かしい子どもたちのために粋なプレゼントをしてあげてはいかがでしょうかとお願いしたいと思っている。</p> <p>世界的にも有名なこの大都市横浜に今、プラネタリウムがたったの1つだけである。前に紅葉坂にもあったが、これは県のプラネタリウムで、余り芳しくなく、今はなくなった。今あるのは洋光台だけである。大人口を抱える大都市としてその住民の学問、文化、生活の豊かさ、質の向上を図る上でも寂しい限りだと思ふ。ありがたいことに、このC’の土地は、あたかも地下鉄の駅用に大事にとっておいたかのごとく、若葉台外周の道路にびったり寄り添って、東西約200数十メートル、250メートルを越す。それが直線である。ゆったり長々と延びている。そのありがたいC’の土地の一面にプラネタリウムがもしできるとすれば、その利便性はとても高く、そこに外からの多くの知性的で可能性に満ちた得がたい集客も大いに期待され、未来の若葉台の名所、若葉台の誇り、若葉台の象徴ともなり得るはずである。今、ブラックホールの撮影成功のニュース等で、天文、宇宙にさらに関心が高まる昨今、将来ここからすばらしい学者が誕生するかもしれない。未来を生きる輝かしい子どもたちのために、中層住宅ではなくて、大変ではあるが教育に予算を割愛し、是非若葉台にプラネタリウムを大奮発してあげてほしい。これはお願いである。今の、プラネタリウムの追加だが、若葉台の地の利はものすごく良くて、洋光台も40年以上経っているかもしれないが、沿線は根岸線しかない。だが、40年も頑張っていて、地域に根づいていて、子どもたちがよく通って、いろんな理科的なことで好きな子がいっぱい集まっている。なくなる。ところが、洋光台に比べて若葉台はそれ以上に地の利があつて、相鉄線があつて横浜線があつて、その2つを結ぶ横浜市営地下鉄がそこにつながって、バスも使えば東急田園都市線も利用可能範囲となる。この洋光台以上の適地を持つ若葉台の優位さが本当にありがたいぐらいで、是非ここに中層住宅ではなく、輝く未来の子どもたちのためにプラネタリウムこそ、是非大奮発してあげてほしいと思ふ。</p> <p>私はこのC’の場所、要するにこれを駅だと思っているが、C’の場所がなぜ駅用の土地だと思ふかという、その疑問を皆さん持たれると思ふが、実際、C’が本当に駅用なのかと思ふ場合には、私の言葉よりも本当にC’に行ってみてご覧になると即、それはもう本当にここが駅なんだとわかると思ふ。なぜかという、東西長さ250メートルというのはグラウンドにすると、100メートルのグラウンドを直線でとれる学校というのはあまりない。横浜の場合には小学校も中学校も高校も大抵グラウンドはコーナーを回っていく。ところが、その直線の100メートルが2つとれて、まだ50メートル余って、そんなものすごい長さの場所がC’にはある。もし運悪く中層住宅ができてしまっても、それは3分の1で済むため、3分の2あれば160メートル以上もあつて、地下鉄線というのは5両しかなくて、1両が20メートルであるため、100メートルプラス60メートル以上あつて悠々できるようになっているため、これも考えて中層住宅の3分の1にしたのかと思っているが、そういう状況である。</p> <p>この250メートル以上の土地に、つばきの2棟目がつくられる予定で、それから、旧モデルルームのあつた場所もそう、その関連事務所のあつた場所もそう、その後ろに駐車場があるが、それもこのC’に含まれて、希望者の畑もC’で、これが全てではなくて、これはぱっと見える場所である。見えない場所でまだすごいところが残っていて、つばきの1棟目から遊水池のほうに向かってくと、よく春にウグイスが鳴いている。そのウグイスの鳴いている小道を南のほうを向いて歩くと鬱そうとした樹林がある。やぶがあつて樹林があつてウグイスが巣をかけていて子どもを育てているが、その樹林を全部取っ払うと更地になる。その更地にした場所がこのC’の土地である。これはもう本当に地下鉄の駅としか思えないようなびっ通りの土地だと私は思っている。</p> <p>私がなぜそれを地下鉄の駅ではないかと思つたその始まりであるが、37年以上前に私が若葉台にやっ来て、いろんな建物を見て、業者の方と話したことがあつた。ある業者の方が、この若葉台は鉄道が来ますよと言つた。その人は、いろいろな土地のそういう工事をしてるため、青写真を見ると、ここにかつて同じような鉄道が来たな、この若葉台のこの地区が似てるぞということがわかつたそうである。それで、若葉台の地区公園のあたりにできるよと教えてくれたのである。私もそれは聞いたのだが、ああ、そんなものかなと思つていた。しかし、私の家の地区公園の山を越した場所にそのつばきの2棟目というのがある。つばきの1棟目は初めにできた。だが、2棟目はなかなかできなくて、10年経つても20年経つても30年経つてもできない。幻のつばき2棟目だと私は思つていたが、案内図には平面図がちゃんと載っている。よく考えると、この平面図は見せかけなのではないかと思つた。ここにあるように見せかけて、では、一体何を守っているのかと思つたら、ここにつくられる駅を守るために見せかけの平面図を書いて人の目をごまかしているのではないかと、そんな気がした。それで余計関心を持ってそこを歩いたりもした。数年前に若葉台に地下鉄の駅ができるというニュースが入つた。ああ、本当なんだと思ひ、では、あの駅の場所も本当かもしれないと思つた。その後で民営化センターがうんと行動した。その行動を通して、私は、ああ、これはもう確実だと思つた。なぜかという、若葉台みらいづくりというのを立ち上げて、まず未利用地の検討というのを始めた。</p>	<p>若葉台団地は、昭和47年3月に「若葉台一団地の住宅施設」の都市計画が決定され、昭和48年に神奈川県住宅供給公社（以下「公社」という。）が事業主体となり、造成工事が始まりました。その後、社会情勢の変化等に伴う過去4回の都市計画変更を経て、現在、総戸数6,000戸を超える、全国でも有数の大規模な住宅団地が形成されています。</p> <p>昭和54年の入居開始から約40年が経過し、若葉台を将来にわたって様々な世代に選ばれ続けるまちとして持続させること等を目的として、地域活動団体、学識経験者及び行政で構成するマスタープラン策定委員会において、まちづくりの検討が進められ、平成29年3月に「横浜若葉台みらいづくりプラン」が策定されました。</p> <p>この「横浜若葉台みらいづくりプラン」において、まちづくりの目標や方針が定められたことを受け、少子高齢化の進展等に伴う新たな土地利用のニーズに対応し、持続可能な住宅団地として維持・発展させていくため、本市は「若葉台一団地の住宅施設」の公益的施設の配置の方針等を変更する都市計画市素案を作成しました。</p> <p>プラネタリウムの建設について御意見をいただいたC’街区は、これまで住宅のみが立地可能な街区でしたが、今回の都市計画変更により住宅に加え、医療施設、福祉施設、学校等及び幼稚園等の立地が可能となるよう公益的施設の配置の方針の見直しを行います。このため、C’街区において、プラネタリウムの立地は想定していませんが、いただいた御意見については、土地所有者である県公社に伝えるとともに、今後横浜市が行う若葉台のまちづくりの参考とさせていただきます。</p> <p>若葉台団地を持続可能な団地として維持・発展させていくため、今後も引き続き、県公社や一般財団法人若葉台まちづくりセンターと連携して、地域の方々とともにまちづくりに取り組んでいきます。</p>